



2021年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年8月12日

上場会社名 株式会社サイバー・バズ 上場取引所 東
 コード番号 7069 URL <https://www.cyberbuzz.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高村 彰典
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CFO (氏名) 山田 洋輔 TEL 03-6758-4738
 四半期報告書提出予定日 2021年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年9月期第3四半期の連結業績（2020年10月1日～2021年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年9月期第3四半期	2,342	0.9	14	△93.3	16	△92.0	△3	—
2020年9月期第3四半期	2,320	5.8	209	△40.8	202	△42.6	150	△33.8

(注) 包括利益 2021年9月期第3四半期 △4百万円 (—%) 2020年9月期第3四半期 150百万円 (△33.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第3四半期	△1.05	—
2020年9月期第3四半期	41.26	37.33

(注) 2021年9月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年9月期第3四半期	2,294	1,882	81.2
2020年9月期	2,375	1,996	84.0

(参考) 自己資本 2021年9月期第3四半期 1,863百万円 2020年9月期 1,996百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年9月期	—	0.00	—		
2021年9月期（予想）				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年9月期の連結業績予想（2020年10月1日～2021年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,350	11.8	50	△76.8	50	△75.5	0	△100.0	0.00
	～3,500	～16.8	～100	～△53.5	～100	～△51.1	～50	～△70.3	～13.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2021年9月期の連結業績予想については、レンジ形式により開示しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年9月期3Q	3,843,100株	2020年9月期	3,783,100株
② 期末自己株式数	2021年9月期3Q	58,338株	2020年9月期	138株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年9月期3Q	3,779,457株	2020年9月期3Q	3,650,204株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報)	7
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による経済活動の停滞が長期化し、厳しい状況となりました。ワクチン接種が本格化し経済活動の回復が期待されるものの、緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の実施が繰り返される等、未だ感染収束の見通しは立っておらず、先行きは極めて不透明な状況が続いております。

当社グループが事業展開を行う2020年の国内インターネット広告市場は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により日本の総広告費が減少する中、社会のデジタル化加速が追い風となり、前年比5.9%増の2兆2,290億円(注1)と推計され、前年に引き続き成長を維持しております。また、2020年の国内インフルエンサーマーケティング市場は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う広告主の広告費削減の影響を受けたものの、前年比5.3%増の317億円と推計されており、同市場規模は、2021年に425億円、2025年に723億円(注2)と2020年比約2.3倍に拡大していくことが予測されております。

このような環境の中、当社グループでは自社のインフルエンサーを扱う「NINARY」「Ripre」を中心に各SNSプラットフォームにおけるインフルエンサーを企業マーケティングへ活用する「インフルエンサーサービス」、企業の保有するSNSアカウントの企画・コンサルティングを含めた運用代行を行う「SNSアカウント運用」、SNS運用管理を行うSaaS型ツール「Owgi(オウギ)」、「インターネット広告代理販売」の4つのサービスを展開し、企業がSNSプラットフォームを通して消費者へ行うマーケティング活動を総合的に支援して参りました。

また、第1四半期連結会計期間より、様々なブランドや企業のSNSマーケティング及びブランディングの支援を行ってきた知見を活かし、新たな事業として商品の企画・開発を行い、直接消費者へ販売する「D2C事業(注3)」を開始いたしました。

これに伴い、報告セグメントを従来の「SMM事業(注4)」の1区分から、「SMM事業」、「D2C事業」の2区分に変更しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,342百万円(前年同期比0.9%増)、営業利益14百万円(前年同期比93.3%減)、経常利益16百万円(前年同期比92.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失3百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益150百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、以下の前年同四半期比較につきましては、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。そのため、前年四半期において「SMM事業」に含めておりました自社メディアの「to buy」は「D2C事業」に含めております。

①SMM事業

当第3四半期連結累計期間におけるSMM事業は、「SNSアカウント運用」およびインフィード広告の需要の高まりを受けた「インターネット広告代理販売」が好調に推移し、また、前年同期から続く新型コロナウイルス感染症拡大に伴う広告主の広告費削減の影響等により低調であった「インフルエンサーサービス」も徐々に回復傾向にあり、増収となりました。

以上の結果、SMM事業の売上高は2,298百万円(前年同期比0.3%増)、営業利益は555百万円(前年同期比17.1%減)となりました。

②D2C事業

当第3四半期連結累計期間におけるD2C事業は、新商品の開発にかかる費用等が発生し、売上高は30百万円(前年同期比5.0%増)、営業損失は108百万円(前年同四半期は36百万円の営業損失)となりました。

③その他

その他に関しましては、HR事業(注5)を行っており、売上高は12百万円、営業損失は9百万円となりました。

(注1) 出典：株式会社電通「2020年 日本の広告費」

(注2) 出典：サイバー・バズ/デジタルインファクト調べ「国内ソーシャルメディアマーケティングの市場動向調査」

(注3) D2C事業：Direct to Consumer事業

(注4) SMM事業：ソーシャルメディアマーケティング事業

(注5) HR事業：ヒューマンリソース事業

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は2,008百万円となり、前連結会計年度末に比べ139百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が173百万円減少したことによるものであります。固定資産は286百万円となり、前連結会計年度末に比べ57百万円増加いたしました。これは、主にソフトウェアが35百万円、投資有価証券が28百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は2,294百万円となり、前連結会計年度末に比べ81百万円減少いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は412百万円となり、前連結会計年度末に比べ33百万円増加いたしました。これは主に買掛金が71百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は412百万円となり、前連結会計年度末に比べ33百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は1,882百万円となり、前連結会計年度末に比べ114百万円減少いたしました。これは主に自己株式を141百万円取得したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は81.2%（前連結会計年度末は84.0%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2020年11月11日の「2020年9月期決算短信」で開示いたしました連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、2021年7月14日に開示しました「通期連結業績予想の修正及び通期個別業績予想の前期実績値との差異に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,638,701	1,465,459
受取手形及び売掛金	469,289	464,511
商品及び製品	—	6,259
貯蔵品	1,026	1,752
その他	38,344	70,271
流動資産合計	2,147,361	2,008,254
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	34,316	41,692
減価償却累計額	△1,473	△3,159
建物附属設備 (純額)	32,842	38,532
工具、器具及び備品	60,076	59,092
減価償却累計額	△12,503	△18,578
工具、器具及び備品 (純額)	47,572	40,514
有形固定資産合計	80,415	79,047
無形固定資産		
ソフトウェア	7,463	42,884
ソフトウェア仮勘定	4,201	4,171
その他	—	239
無形固定資産合計	11,664	47,295
投資その他の資産		
投資有価証券	7,500	35,942
繰延税金資産	28,084	21,062
敷金及び保証金	100,783	93,543
その他	—	9,364
投資その他の資産合計	136,368	159,913
固定資産合計	228,448	286,256
資産合計	2,375,810	2,294,511
負債の部		
流動負債		
買掛金	170,071	241,207
未払金	70,933	72,229
未払法人税等	8,186	1,138
ポイント引当金	17,310	17,890
その他	112,502	79,755
流動負債合計	379,004	412,220
負債合計	379,004	412,220
純資産の部		
株主資本		
資本金	457,021	463,021
資本剰余金	457,021	463,021
利益剰余金	1,083,547	1,079,572
自己株式	△783	△142,268
株主資本合計	1,996,805	1,863,346
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	△38
その他の包括利益累計額合計	—	△38
新株予約権	—	18,982
純資産合計	1,996,805	1,882,290
負債純資産合計	2,375,810	2,294,511

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)
売上高	2,320,978	2,342,268
売上原価	991,298	1,139,082
売上総利益	1,329,680	1,203,185
販売費及び一般管理費	1,119,853	1,189,179
営業利益	209,827	14,006
営業外収益		
助成金収入	—	3,582
雑収入	5,822	988
営業外収益合計	5,822	4,570
営業外費用		
減価償却費	13,341	—
投資事業組合運用損	—	1,218
自己株式取得費用	—	1,131
雑損失	9	9
営業外費用合計	13,350	2,359
経常利益	202,299	16,217
特別利益		
移転補償金	24,650	—
特別利益合計	24,650	—
税金等調整前四半期純利益	226,949	16,217
法人税、住民税及び事業税	73,882	13,170
法人税等調整額	2,471	7,021
法人税等合計	76,353	20,192
四半期純利益又は四半期純損失(△)	150,595	△3,975
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	150,595	△3,975

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	150,595	△3,975
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△38
その他の包括利益合計	—	△38
四半期包括利益	150,595	△4,013
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	150,595	△4,013

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年2月10日開催の取締役会決議に基づき、自己株式58,200株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が141,484千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が142,268千円となっております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を要因とする当社グループの事業に関する需要動向への影響の度合いは未だ不透明な部分がありますが、その影響は限定的であるとの仮定に基づき当連結会計年度における繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の収束が遅延し、想定を超える需要への影響が生じた場合には、翌連結会計年度以降の当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	SMM事業	D2C事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,291,471	29,506	2,320,978	—	2,320,978	—	2,320,978
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	2,291,471	29,506	2,320,978	—	2,320,978	—	2,320,978
セグメント利益又は損 失(△)	670,375	△36,495	633,880	—	633,880	△424,052	209,827

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△424,052千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	SMM事業	D2C事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,298,593	30,967	2,329,561	12,707	2,342,268	—	2,342,268
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,700	—	1,700	1,008	2,708	△2,708	—
計	2,300,293	30,967	2,331,261	13,715	2,344,976	△2,708	2,342,268
セグメント利益又は損 失(△)	555,969	△108,524	447,445	△9,749	437,696	△423,689	14,006

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、HR事業を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△423,689千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、様々なブランドや企業のSNSマーケティング及びブランディングの支援を行ってきた知見を活かし、新たな事業として商品の企画・開発を行い、直接消費者へ販売する「D2C事業(注1)」を開始いたしました。

これに伴い、報告セグメントを従来の「SMM事業(注2)」の1区分から、「SMM事業」、「D2C事業」の2区分に変更しております。

また、第1四半期連結会計期間より「HR事業(注3)」を開始しており、当該事業の経営成績は「その他」に含めております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。そのため、前第3四半期連結累計期間において「SMM事業」に含めておりました自社メディアの「to buy」は「D2C事業」に含めております。

(注1) D2C事業: Direct to Consumer事業

(注2) SMM事業: ソーシャルメディアマーケティング事業

(注3) HR事業: ヒューマンリソース事業

(重要な後発事象)

該当事項はありません。